

<STEP2 事例 優先度の高い環境行動の実施>

旅館の省エネ対策とおもてなしの両立 (株式会社日昇別荘 専務取締役支配人 山本孝明さん)

取材日：2025.7.2

Q 取り組みの背景・きっかけ

A

- ・コロナ禍以降、宿泊客の半数を占める修学旅行において各部屋の宿泊人数が減り収益を圧迫するなどコスト削減が深刻な課題となっている。
- ・旅館は、空調・照明・給湯などエネルギー使用量が多く、光熱費の削減が直接的な利益改善につながる。人手不足と物価高が続く中、エネルギー効率を高める運用で安定した経営を目指したい。
- ・京都の旅館文化と親和性の高い SDGs の考えに共感し、業務上の小さな工夫や改善を積み重ねることで、持続可能な観光を実現したいと考えている。



Q 取り組みの内容・取り組みを進める上で工夫したこと苦労したこと

A

- ・宿泊者のタイムスケジュールを把握し、照明や空調、給湯設備の稼働を管理。具体的には、全てを一齐に稼働させると大きな負荷がかかるため、旅館への到着時間や夕食・入浴のタイミングに合わせて、電源を入れる順番や時間を調整し、電力のピークをずらしている。
- ・課題は従業員会議で共有しながら柔軟に対応している。デマンド計を設置して使用電力量を「見える化」することで従業員一人ひとりにも「ずらす」意識を浸透させ、こうした積み重ねにより、省エネへの取り組みが定着してきた。
- ・食品ロス対策では、修学旅行団体を中心に、最初に提供するご飯量を控えめにし、必要に応じておかわりを提供する仕組みを導入。これにより、無駄を減らしつつ温かいご飯を提供できるため、生徒や先生からも好評を得ている。欠食・残食率は毎日行うミーティングでスタッフへ共有し、必要な場合は、調理担当も加わり改善方法等を検討している。大量調理できない献立だからこそ、細かな調整が重要となっている。
- ・アメニティについては、プラスチック削減やコスト低減を見据え、従来の「部屋ごとにセット」から「必要分をセルフで取る方式」への移行を検討している。



Q 成果とメリット

A

- ・省エネや食品ロス削減への取り組みは単なるコスト削減策ではなく、顧客満足度の向上にもつながっている。
- ・SDGs やサステナブルの取り組みが、修学旅行生に響いている実感はないが、学習テーマとして興味を持ち質問する生徒は少なくない。そうした場面で具体的な取り組みを伝えることで、教育的効果もあり、結果的に旅館のブランド向上にもつながっている。

株式会社日昇別荘 (代表取締役 田中 美岐)

京都市中京区、従業員：27人

事業内容：旅館業

(<https://nisscho-besso.com/sdgs/>)